

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざし、地域と共に歩み、地域に愛され信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、高い目的意識のもと自身の進路を実現し自立できる生徒を育成する。
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じ、感性豊かな人間性を持つ生徒を育成する。
- 3 地域との連携・交流を深め、社会に貢献できる多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。また、教員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。さらに ICT を活用した授業改善についても研究を進める。

生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成30年度70%)、授業理解度(平成30年度77%)を毎年2%以上引き上げ、2021年度にはそれぞれ74%、82%以上にする。

イ 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。

生徒向け学校教育自己診断における授業集中度(平成30年度78%)、家庭学習度(平成30年度46%)を毎年2%以上引き上げ、2021年度にはそれぞれ83%以上、45%以上にする。

(2) より高い進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。

ア 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、より高い進路目標の実現に向かって努力する生徒を育成する。

イ 個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。

センター試験受験者数(平成30年度58名)を引き上げ、70名以上をめざす。

2021年度までの3年間で、国公立大学3名・難関私立大学30名以上の合格(現浪合わせて)をめざす。

(3) 図書活動の推進により、将来への夢や志を育み自身の進路を探求させる。

ア あらゆる教育活動における読書活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。

イ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取組みを通じ、英語に慣れ親しみ英語検定や TOEFL にチャレンジする意欲を持たせる。

ウ 国語科読書マラソンの取組みを通じ、読書好きの生徒を育てるとともに言語活動の充実を図る。

図書館の年間貸し出し数9,000冊以上をめざす。(平成30年度:6903冊)

英語検定の受験者数を250名以上とする。(平成30年度:175名)

2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を充実させる。

ア 基本的生活習慣の確立のうえに規範意識の高い自主性にあふれた生徒集団づくりをめざす。また、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができるよう教育相談体制の充実を図る。また、「いじめ対策委員会」を中心に、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。

生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度(平成30年度68%)を毎年1%以上引き上げ2021年度には70%以上に、気軽に相談できる先生の

存在肯定率(平成30年度46%)を毎年2%以上引き上げ2021年度には49%以上にする。また、人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率

(平成29年度88%)を90%以上に引き上げ、継続をめざす。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度(平成30年度88%)を90%以上に、部活動満足度(平成30年度84%)を毎年1%以上引き上げ、2021年度には87%以上に、また部活動加入率(平成30年度65%)を毎年2%引き上げ、2021年度には69%以上にする

(3) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育、人権教育の充実を図る。

ア 高大・企業連携を盛り込んだ3年間のキャリアプランを確立させるとともに、地域や同窓会などの外部人材を積極的に活用し社会に貢献できる人材を育成する。

生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会の肯定率(平成30年度80%)、進路情報満足度(平成30年度78%)を毎年1%以上引き上げ2021年度にはそれぞれ、82%以上、80%以上にする。

イ 日ごろの教育活動を通じて、自尊感情を育て他者への思いやりにあふれる生徒を育成するとともに3年間を見通した人権教育計画に基づき、その充実を図る。

生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度(平成30年度79%)、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会度(平成30年度73%)を毎年1%以上引き上げ2021年度にはそれぞれ、81%以上、75%以上にする。

3 地域連携・交流の確立と伸長

(1) 地域交流のさらなる拡大と深化を図り、社会に貢献できる生徒の育成に取り組むとともに外部への情報発信力をさらに強化する。

ア 支援学校、近隣の保育園、幼稚園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動を通じて、共生社会の担い手となる生徒を育成する。

生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりの多さ肯定率(平成30年度37%)、近隣の学校との交流の多さ肯定率(平成30年度29%)を毎年2%以上引き上げ2021年度にはそれぞれ、39%以上、31%以上にする。

イ HP や学校説明会・中学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒用】 「学校に行くのが楽しい」82%、「進学してよかった」86%と肯定的な評価は高い。</p> <p>「授業に満足している」は71% 67%と減少したが、「授業について行けている」は77% 80%とH30と比較して伸びている。</p> <p>「家庭学習時間1時間未満」54%(H30と同じ)、「スマホ使用時間3時間以上」が56% 62%とH30と比べ、学習よりスマホ中心の生活であることがより顕著になっていることが読み取れる。家庭学習時間の確保が課題である。</p> <p>「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会がある」73% 79%、「人権の大切さを学ぶ機会がある」79% 85%、とH30と比較して伸びている。</p> <p>「地域の人々と関わる機会がある」37% 33%、「近隣の学校と交流する機会がある」29% 27%とH30と比べより低い値となった。交流活動が減り、生徒会活動、部活動が中心となるため、全体としてより低くなったと考えられる。</p> <p>【保護者】 「ホームページは役立っている」が昨年度と比べ41% 64%と大幅に増加した。昨年度途中に導入したメーリングリストを活用して学校行事の案内等、情報発信に努めたからであると考えられる。</p>	<p>【第1回】令和元年6月15日(土) : 委員 : 校長 山本高校の新しい魅力づくりについて</p> <p>[学習] 最近の山高生はおとなしくなってきた。もっと授業等で主体的に自分の意見をきちんと言えようになる取り組みが必要では？ 1年現代社会では自分の意見を「文章にまとめる」という方法で発信させている。今後はグループ学習を導入するなど、人前で自分の意見が言えるように取り組んでいく。また、いわゆるアクティブラーニングについては、英語や情報等いくつかの授業で取り組んでいる。 家庭学習時間が少ないのは、他校も同じか？ どの学校も同じ課題を抱えている。</p> <p>[生徒指導] あいさつと笑顔は、お金のかからない最高のコミュニケーション。山高生はきちんとあいさつをするのか？ する生徒もいるが、まだまだ不十分である。今後も指導していきたい。 遅刻の減少等、良い項目はどんどん外部へ発信すべきでは？ 検討していきたい。</p> <p>地域ならびに学校園の連携・交流について</p> <p>[連携] 「先輩に学ぶ」(注：地域等で活躍する同窓生による講演)の生徒の反応は？ 毎年、生徒たちに非常に好評である講演がある。現役生たちは、先輩方の若き日の失敗談と、そこから何を学びどのように立て直していったのかについて非常に興味があるようだ。</p> <p>【第2回】令和元年11月13日(水) [地域交流] 伝統を守りつつ、山高らしさを全面に出して、地域交流に取り組んでいただきたい。 地域交流で山高生は子どもと親しもうとしている。良いことなので続けていただきたい。</p> <p>【第3回】令和2年2月6日(木) [地域交流] 学校教育自己診断で、地域との連携に関する肯定的評価が下がっている。その理由は？ 八尾支援学校等との交流や音楽系クラブによる地域イベントの参加などは行っているが、一部の生徒によるものであり、学校全体へ周知されていない。ポスター作成やメーリングリスト等を利用して他の生徒へ積極的に紹介していきたい。</p> <p>地域連携は、地域からの要望を待つだけでなく、学校からも積極的に発信すべきでは？ 今後検討していきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善への取組み	(1)	(1)	(1)
	ア 習熟度別・少人数展開 授業の充実	ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、「数学」(第1学年)、「英語」(第1学年・第2学年)の習熟度別・少人数展開授業の充実を図る。	ア・生徒による授業アンケート、授業進度・難易度の肯定率80%(平成30年度77%) 数学1年78%(平成30年度:76%) 英語1年89%(平成30年度:86%) 英語2年82%(平成30年度:79%)	ア・2回実施(7月、12月)肯定率82%() 数学 :81%(H30:76%)() 英語1年:83%(H30:86%)() 英語2年:82%(H30:79%)() 数学及び英語2年は目標を達成したが英語1年は達成できなかった。さらなる向上に向けた検討が必要。
	イ 公開授業・授業見学、授業アンケートを活用した授業改善の推進	イ・運営委員会、教務部が主体となり授業公開週間を定め(9月~11月)グループによる相互授業見学・相互評価を実施する。 ・生徒による授業アンケート(年2回)結果による分析と課題把握を行い授業改善を進める。	イ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度72%(平成30年度71%)、授業理解度78%(平成30年度77%)	イ・学校教育自己診断 授業満足度67%(H30:71%)() 授業理解度80%(H30:77%)() 授業理解度は目標は達成できた。引き続き公開授業等を通じてさらなる授業改善に取り組みたい。
	ウ 成績中位者・成績不振者層の指導充実	ウ・各教科・学年が連携し宿題や予習・復習等の課題を設定することで家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。加えてアルバイトをしている生徒の状況を把握する。	ウ・生徒向け学校教育自己診断における家庭学習時間1時間以上の生徒47%以上(平成30年度46%) 家庭学習習慣ゼロの生徒28%以下(平成30年度29%)、 アルバイトをしている生徒39%(平成30年度40%)	ウ・学校教育自己診断 家庭学習時間1時間以上の生徒46%(H30:46%)() 家庭学習習慣ゼロの生徒28%(H30:29%)() アルバイトをしている生徒47%(H30:40%)() いずれの項目も目標を達成できなかった。家庭学習習慣の確立に向けて企画会議(校長、教頭、事務長、首席)で再度検討する。
	(2) より高い進路実現への取組み	(2)	(2)	(2)
	ア 目標・能力に応じた進学講習体制の充実	ア・進路指導部、各教科、学年の組織的連携により進学講習(通常、夏期・冬期)の充実を図り大学進学者全員を2月・3月入試まで主体的に学習させる。	ア・「学力生活実態調査」のBランク以上が全体の60%以上。(平成30年度59%) ・センター試験受験者65名(平成30年度58名) 国公立大合格者2名(平成30年度1名) 関関同立合格者(現浪合計)35名以上(平成30年度20名)	・Bランク以上:73%(H30:59%)() ・センター試験出願者数:58名(H30:58名)() 国公立大合格者2名() 関関同立14名() 現浪計16名() Bランク以上の生徒数は昨年度を大きく上回ったがセンター試験出願者数は昨年度と同数だった。今後は共通テスト説明会の複数開催について検討する。
	(3)図書活動の推進	(3)	(3)	(3)
	ア Graded Readersの活用による英語科Book Report取組みの推進	ア・Graded Readers蔵書数の充実を図り取組みをさらに充実させるとともに英語検定に積極的にチャレンジさせる。	ア・Graded Readers4000冊(平成30年度3044冊) 英検受験者数200名以上(H30年度175名)	ア・Graded Readers3693冊(H30:3044冊)() GTEC導入 受験392名() 英検に代わりGTECを導入し4技能の到達度の指標作りに努めた。

府立山本高等学校

	イ 国語科読書マラソン取組み推進	イ・国語科と図書館の連携をさらに深め、学習単元の補完・補強から新しい分野へ広がる読書活動を促す。	イ・読書マラソン提出カード 平均 6 冊 (平成 30 年度 6 冊)	イ・読書マラソン提出カード 平均 10 冊 (H30: 6 冊)() 国語の授業での本の紹介を充実した結果、目標値を大きく上回ることができた。
2	(1) 規範意識の醸成と支援体制の充実	(1)	(1)	(1)
	ア 個に応じた支援体制の充実と規範意識、自主性に富んだ生徒の育成	ア・生徒の自主・自律を育む生徒指導体制を継続し、高校生活支援カードおよび府の SC 事業との連携により個々の生徒を支援する教育相談体制の充実を図る。	ア・生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度 69%(平成 30 年度 68%) 気軽に相談できる先生の存在肯定率 47% (平成 30 年度 46%)	ア・学校教育自己診断 生活指導納得度 68%(H30:68%)() 気軽に相談できる先生の存在肯定率 46% (H30:46%)() いずれの項目の数値も昨年度と同じに留まった。生徒への丁寧な説明や生徒から話しかけやすい雰囲気づくりが必要である。
	イ 部活動のさらなる活性化に向けた取組みの推進	イ・いじめの未然防止、早期発見・早期解決のため、教職員の情報共有を図るとともに、「いじめ対策委員会」を中心に組織的に対応する。 ウ・全教員による登校指導を継続し、生徒の安全確保、遅刻者数の減少に努める。	イ・生徒向け学校教育自己診断における人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率 90%(平成 30 年度 89%) いじめ対応における教員の真剣な対応肯定率 78%(平成 30 年度 77%) ウ・年間遅刻者数 943 名以下 (対 H30 年度 10%減) (平成 30 年度 1048 名)	イ・学校教育自己診断 人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率 90%(H30:89%)() いじめ対応における教員の真剣な対応肯定率 82%(H30:77%)() いずれも項目も目標値を上回った。 ウ・遅刻者数 1220 名(H30:1048 名)() 16%増 今後は 10 分前登校を全校的に行っていく。
感性豊かな人間性を持つ生徒の育成	(2)	(2)	(2)	(2)
	ア 生徒会活動の活発化と学校行事等の充実	ア・生徒会執行部、生徒各委員会の組織化を図り生徒会行事等を通じ生徒の自治意識を育てる。	ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度 90%以上(平成 30 年度 88%)	ア・学校教育自己診断 学校行事満足度 89%(H30:88%)() 目標値には届かなかったが昨年度を上回った。
	イ 部活動のさらなる活性化に向けた取組みの推進	イ・部活動体験入部期間の延長と複数化を図る。 (春・秋の 2 回実施) ・近隣中学校との部活動交流を推進する。 (技術指導・合同練習) ・ノークラブデーや全庁一斉退庁日など「働き方改革」の主旨を踏まえ、バランスのとれた部活動を推進する。	イ・生徒向け学校教育自己診断における部活動満足度 85% (平成 30 年度 84%)、 部活動加入率 66% (平成 30 年度 65%) ・ノークラブデー、全庁一斉退庁の徹底 「働き方改革」職員研修の継続実施	イ・学校教育自己診断 部活動満足度 60%(H30:84%)() 部活動加入率 65%(H30:65%)() いずれも目標値には及ばなかった。部活動加入への年度途中での呼びかけ強化に取り組みたい。 ・教員による下校指導当番の設定 今年度下校指導当番を導入し、生徒に働きかけることで全教職員の退庁への意識づけを行った。
	(3) 総合的なキャリア教育・人権教育の充実	(3)	(3)	(3)
	ア 高大連携・企業連携を盛り込んだキャリアプランによるキャリア教育の充実	ア・キャリアプランに基づいた取組みを進め、適切な進路情報の発信により自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。 進路選択のため、生徒のニーズに応じた大学見学会(2 年生/7 月)を実施する。	ア・キャリアプランの策定 ・生徒向け学校教育自己診断における進路情報満足度 79%(平成 30 年度 78%)	ア・学校教育自己診断 進路情報満足度 83%(H30:78%)()

府立山本高等学校

	<p>イ 外部人材の活用によるキャリア教育の実践</p> <p>ウ 3年間を見通した人権教育の実践と充実</p>	<p>イ・同窓会の協力のもと学年ごとに「先輩に学ぶ」企画を実施する。</p> <p>ウ・人権教育計画やいじめ防止基本方針に基づき、人権教育委員会・教育相談委員会を中心に人権教育を計画・推進する。</p>	<p>イ・生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会の肯定率 81% (平成 30 年度 80%)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度 80% (平成 30 年度 79%) 命の大切さを学ぶ機会度 74% (平成 30 年度 73%)</p>	<p>イ・学校教育自己診断 進路・生き方を考える機会の肯定率 85% (H30:80%)() 同窓会を活用した企画で毎年生徒の評判はよい。今後も継続実施予定。</p> <p>ウ・学校教育自己診断 人権の大切さを学ぶ機会度 85% (H30:79%)() 命の大切さを学ぶ機会度 79% (H30:73%)() LGBT に係る講演会(1年)や人権演奏会(1・2年)の生徒の評判は良かった。</p>
<p>3 地域連携・交流の確立と伸長</p>	<p>(1) 地域交流の拡大と深化による生徒育成の取組み</p> <p>ア 支援学校、近隣の保育園、幼稚園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動の促進</p> <p>イ 学校説明会、中学校訪問のさらなる充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒会、クラブ活動、授業などを通じた八尾支援学校、近隣の幼稚園、小・中学校との交流をさらに充実させる。 ・地域や諸施設との交流やボランティア活動への参加をさらに積極的に実施する。 ・それぞれの活動の一般生徒への広がりや広報(周知)による認識を高める。</p> <p>イ・本校のアドミッションポリシー(求める生徒像)が中学生、保護者に明確に伝わるよう中学訪問、学校説明会を通じて、積極的・効果的な情報発信に努める。 ・活発な HP 情報更新により効果的な情報発信に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における近隣の学校との交流の多さ肯定率 30% (平成 30 年度 29%)、 地域との関わりの多さ肯定率 38% (平成 30 年度 37%)</p> <p>イ・学校説明会 3 回以上実施 参加者 1150 名以上 (平成 30 年度 1123 名)</p> <p>中学校訪問 70 校以上 (平成 30 年度 68 校)</p> <p>保護者向け学校教育自己診断におけるホームページは役立っているの肯定率 50% (平成 30 年度 42%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断 近隣の学校との交流の多さ肯定率 26.9% (H30:29%)() 地域との関わりの多さ肯定率 33% (H30:37%)() 目標値を下回った。部活動単位(陸上、和太鼓、吹奏楽等)や生徒会による八尾支援学校との交流等を実施したが、部活動等の生徒以外は交流のチャンスがなく、結果として、学年全体や学校全体での取組みには至らなかった。今後は学校全体での取組みを検討するとともに取組みを校内に発信していきたい。</p> <p>イ・学校説明会参加者 1211 名(H30:1123 名)() 8%増 中学校からの要望に応え、昨年同様、1 回の実施時に同時 2 会場で行うなど集客率の増大の工夫の結果、昨年度をさらに大きく上回った。 中学校訪問: 63 校(H30:68 校)() 目標値に達しなかった。引き続き継続実施していきたい。</p> <p>・学校教育自己診断 ホームページは役立っているの肯定率 64% (H30:42%)() 目標値を大きく上回った。生徒のメーリングリストを導入したので今後も積極的に活用したい。</p>